

Newsletter of Japanese Coral Reef Society

contents

page

新会長あいさつ	2
法人化 Q&A	2
日本サンゴ礁学会第20回大会および公開シンポジウムのご案内	3-5
大会プログラム	4-9
書評:ブルーカーボン	10
報告:第2回若手科学者サミット参加報告	10
写真と共に振り返る 日本サンゴ礁学会の20年の歩み	11-12

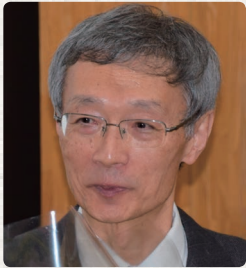


20
周年記念号



新会長あいさつ

サンゴ礁学会を さらに魅力ある学会に…



日本サンゴ礁学会は、いよいよ今年、一般社団法人としてスタートします。当面の目標は、法人としての基盤を整え、持続的な学会運営の基礎を作ることです。法人化後は、理事会と委員会が学会運営の実働部隊となります。そして、選挙で選ばれた代議員よりなる代議員会（代議員総会）が、理事や監事などの役員を選任するとともに、学会運営をチェックする役割をもちます。これまで大会時に開かれていた「総会」は無くなります。会員は、代議員選挙や会長候補者選挙、そして会員MLなどを通じて意思表示することができますが、会員が代議員総会にオブザーバーとして参加したり、直接理事会に提案や質問をしたりする仕組みについても今後検討していきたいです。学会活動が維持されるうえで最も大事なことは、学会運営を担う人が固定化せずに順繰りに交替していくことだと思います。会員の皆様方の学会運営への積極的な参加を宜しくお願いいたします。

近年、サンゴ礁研究に先端的手法が用いられ研究が細分化するに伴い、大会の場で専門的な深い議論ができないという不満を耳にします。サンゴやサンゴ礁の魅力に魅せられて研究する同志という一体感が薄まってしまったという指摘もあります。大会のテーマセッション、シンポジウムなどで、外国の研究者や異分野で一歩先を行く専門家を招待するなど、大会の魅力を高める工夫をいっそう進めることが必要です。学会誌への投稿が若手研究者にとって有益な経験となるよう、丁寧かつ建設的な査読をお願いしたいと思います。和文誌を強化し、情報共有・発信の場として有効に活用することも必要です。今一度、サンゴ礁に関心をもつ幅広い人たちの一体感のある学会としての魅力を高めるにはどうしたらよいかを考えていきたいです。サンゴ礁に対する社会の関心を高め、サンゴ礁の最新の知見や保全に関する情報発信・提言を行う必要性もますます高まると考えられます。法人化を機会に、サンゴ礁に関する教育・普及啓発活動やアジア・太平洋域におけるサンゴ礁研究の国際連携など、本学会に特徴的な活動を支える基盤をより強固なものにしたいと考えます。

設立時理事会は、来年の4月を目途に、定款細則、役員・代議員選任規則、そして大会運営の基礎的ルールなどの規則整備を行います。会員の皆様方の学会運営に対するご意見、そして積極的な参加を宜しく願います。

サンゴ礁学会 新会長 日高道雄

法人化 Q & A

Q: なぜ法人化したの？

A: これまで日本サンゴ礁学会は「任意団体」という扱いの中で頑張ってきましたが、法人格を得ることで、法律上、より社会的に信用のある団体としてみなされることとなります。日本学術会議の協力学術研究団体であることは、学術研究を行う団体としての信用性の向上に寄与していますが、法人化により財政管理面等の組織運営でもより信用性のある団体としてみなされ、学会として取り組む事業に対して、国や企業からの資金を受給しやすくなる体制が整います。

Q: 学会員にとって大きな変化はあるの？

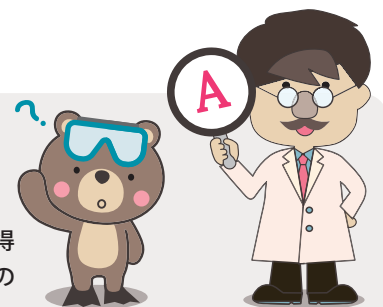
A: 学会の意思決定は、理事会と、それをチェックする代議員会という構図になりますが、学会のイベントや配布物、学会費等での大きな変化はありません。いっぽう、法人化に伴って、会員管理業務等を、これまでの「毎日学術フォーラム」から「日本サンゴ礁学会事務局」が行うようになりますので、各種変更手続きの連絡先が変更になります。また、学会として、外部からの賛助を受けられるような魅力的なコンテンツを作っていくことで、寄付等による資金を得た場合は、学会員の方々の様々な活動へのサポートが可能になります。

Q: 少人数の理事会によって学会の運営方針が決まることは問題にならないの？

A: 理事会の回数を増やすなど、各種課題に臨機応変な対応ができることが期待できます。一般会員の方々の選挙で選ばれた代議員によって選ばれた理事が、一定期間で交代しながら務めることとなりますので、多くの学会員の方に積極的に代議員、理事になっていただくことにより、スムーズでバランスのとれた学会運営が行われることが期待されます。



法人化に関する疑問をお持ちの方は、学会事務局までお問い合わせください。





日本サンゴ礁学会 第20回大会および公開シンポジウムのご案内

日程 2017年11月23日(木) ≫ 11月26日(日)

会場 東京工業大学 大岡山キャンパス 大岡山西9号館 <http://www.titech.ac.jp/maps/>
 デジタル多目的ホール, コラボレーションルーム, メディアホール <http://www.dst.titech.ac.jp/outline/facility/hall.html>

大会実行委員: 瀬岡 和夫 (委員長), 中村 隆志 (幹事), 渡邊 敦, 吉開 仁哉, 茅根 創, 山野 博哉, 佐藤 崇範, 樋口 富彦, 嶋 康輝, 山本 将史
 お問い合わせ先: 大会実行委員会 jcrs20th@gmail.com

スケジュール

11月23日(木) 大会1日目		
08:30-	受付開始 (大岡山西9号館 2階エントランス)	
09:00-11:15	口頭発表 (デジタル多目的ホール)	口頭発表 (コラボレーションルーム)
11:30-12:30	旧総会 (デジタル多目的ホール)	
14:00-15:00	口頭発表 (デジタル多目的ホール)	口頭発表 (コラボレーションルーム)
15:15-17:45	ポスター発表 (メディアホール)	
18:00-20:00	自由集会① (講義室 W934)	自由集会② (講義室 W935)
		自由集会③ (講義室 W936)

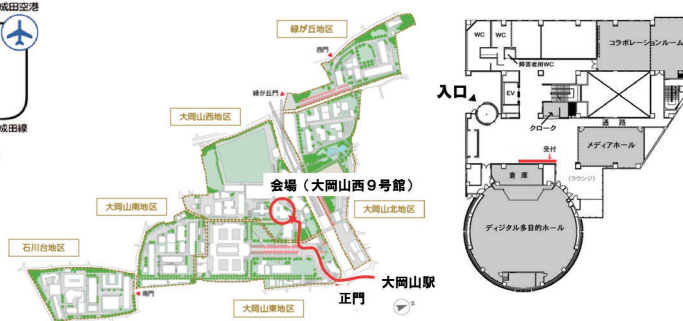
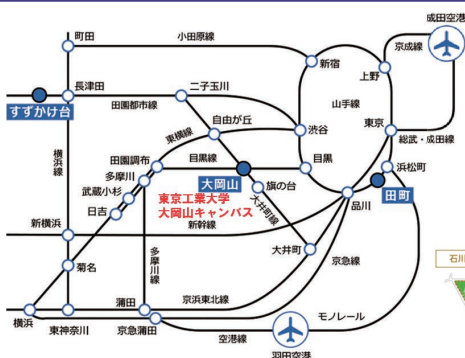
11月24日(金) 大会2日目		
09:00-	受付開始 (大岡山西9号館 2階エントランス)	
09:00-10:00	口頭発表 (デジタル多目的ホール)	
10:15-11:30	口頭発表 (デジタル多目的ホール)	口頭発表 (コラボレーションルーム)
11:45-12:30	テーマセッション① (デジタル多目的ホール)	
12:40-13:40	代議員総会 (西8号館 W311)	
14:00-15:00	テーマセッション② (デジタル多目的ホール)	
15:15-17:45	ポスター発表 (メディアホール)	
18:00-20:00	自由集会④ (講義室 W934)	自由集会⑤ (講義室 W935)

11月25日(土) 大会3日目		
09:00-	受付開始 (大岡山西9号館 2階エントランス)	
09:00-11:00	テーマセッション③ (デジタル多目的ホール)	サンゴ礁保全活動&小・中・高校生 によるサンゴ礁研究ポスター発表 (メディアホール)
11:15-15:00	English session (デジタル多目的ホール)	
15:15-17:45	法人化・第20回記念セレモニー&学会賞等発表&受賞講演 (デジタル多目的ホール)	
18:00-20:00	懇親会 (緑ヶ丘6号館 大ホール)	

11月26日(日) 大会4日目		
09:00-	受付開始 (大岡山西9号館 2階エントランス)	
09:30-12:00	公開シンポジウム・前半 (デジタル多目的ホール)	
13:00-16:30	公開シンポジウム・後半 (デジタル多目的ホール)	

会場までの道のり

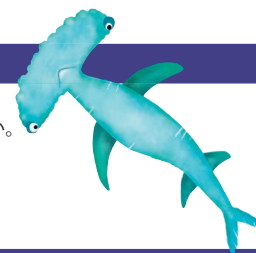
- 東京工業大学 大岡山キャンパス
<http://www.titech.ac.jp/maps/>
 大岡山駅 (東急大井町線・目黒線)
 徒歩3~4分
- 大岡山キャンパスマップ
<http://www.titech.ac.jp/maps/ookayama/>
- 大岡山西9号館2階
<http://www.dst.titech.ac.jp/outline/facility/hall.html>



会場受付

- 大会受付は大岡山西9号館2階のエントランスホール内です。入口は西9号館の2階になりますのでご注意ください。口頭発表およびポスター発表も同じ2階フロアです。

- クロークを用意しておりますのでご利用ください。



口頭発表

- 会場は大岡山西9号館2階のデジタル多目的ホールとコラボレーションルームの2会場に別れています。発表時間と会場は以下のプログラムをご確認ください。
- 講演時間は15分(発表12分+質疑応答3分)です。
- 発表機材は液晶プロジェクターを用意します。パソコンはWindowsを用意します。
- 発表前の休み時間までに発表ファイルを会場のパソコンにコピーし、動作確認をしておいて下さい。
- 各自のパソコンを使用することも可能ですが、動作確認をしておいて下さい。
- 若手優秀賞エントリーされている発表には「*」が付いています。

ポスター発表

- 会場は大岡山西9号館2階のメディアホールです。1日目と2日目の2回に分けて行います。(後述の「サンゴ礁保全活動 & 小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスター発表」は3日目の9:00-14:45に行います。) 発表日は以下のプログラムをご確認ください。
- ポスターセッションは1日目と2日目のそれぞれ15:15-17:45に行いますが、掲示時間帯は発表当日の9:00～18:00となります。継続して掲示し続けることはできませんので、各掲示時間帯終了後に撤去をお願いします。
- 若手優秀賞へエントリーされている発表者(希望者)のためにスピードトーク(1人2分間)の機会を用意します。スピードトークの受付に関しては、後日ご連絡します。
- 若手優秀賞へエントリーされているポスターには「*」が付いています。
- ポスター発表はパネルの大きさが約175cm(縦)×115cm(横)です。この範囲に収まるように各自ポスターの大きさを設定して下さい。

テーマセッション

テーマセッション①

海洋生物における多様性の創出と維持—繁殖の役割を考える

コンピーナー：磯村 尚子 (沖縄工業高等専門学校生物資源工学科)

【口頭発表】

日時：11月24日(金) 11:45-12:30

会場：デジタル多目的ホール

【ポスター発表】

日時：11月24日(金) 15:15-17:45

会場：メディアホール

サンゴ礁を含め海域には多種多様な海洋生物が生息する。多様な生物が存在するには、様々なタイプの個体が生産され、同時にそれらが安定して存続していくことが必要となる。この多様性の創出と維持には、様々な生態的機構が関与している。中でも繁殖は、種内の遺伝的多様性や種間交雑、生殖隔離に深く関係しており、多様性の創出と維持の両方において重要な役割を担っている。本セッションでは、手法・研究分野を問わず、また、サンゴに限らず様々な分類群を対象に、繁殖と多様性について研究されている方に自身の研究を紹介いただく。その上で、異なった分野・分類群間で知見を共有し、多様性の創出と維持機構への理解を深めることを目的とする

テーマセッション②

沖縄県におけるオニヒトデ大量発生

Possible causal factors of the Crown-of-Thorns Seastar Outbreaks in Okinawa

コンピーナー：岡地 賢 (有限会社コーラルクエスト)

【口頭発表】

日時：11月24日(金) 14:00-15:00

会場：デジタル多目的ホール

【ポスター発表】

日時：11月24日(金) 15:15-17:45

会場：メディアホール

沖縄県で1970年代以降に慢性化したオニヒトデの大量発生は、現在もおサンゴ礁へのおもな脅威となっている。大量発生メカニズムとして、グレートバリアリーフでは浮遊幼生期の餌となる植物プランクトンの増加が要因だとする「幼生生き残り説」が有力だが、沖縄県の大量発生も同様に説明できるのだろうか？本セッションでは、最近数年間に行われたオニヒトデ研究による、沖縄県での大量発生に関する新たな理解について議論します。

The repeated and chronic outbreaks of the Crown-of-Thorns Seastar (COTS) have been the major threat to coral reefs in Okinawa since the early 1970s. A possible cause that has been widely accepted in the GBR is the increased biomass of phytoplankton due to terrestrial nutrient runoff, i.e. the larval survival hypothesis. Is the same hypothesis applicable to the case of COTS outbreaks in Okinawa? To address this question, new insights into the causal factors of COTS outbreaks will be discussed in this session.

テーマセッション③

サンゴ礁生態系レジリエンス回復の切り札とは？

—赤土対策の歴史・現状を知り大規模白化時代の陸域対策の意義とあり方を考える—

コンピーナー：金城 孝一 (沖縄県衛生環境研究所), 瀧岡 和夫 (東京工業大学環境・社会理工学院), 鹿熊 信一郎 (沖縄県海洋深層水研究所), 中野 義勝 (琉球大学熱帯生物圏研究センター)

【口頭発表】

日時：11月25日(土) 9:00-11:00

会場：デジタル多目的ホール

【ポスター発表】

日時：11月24日(金) 15:15-17:45

会場：メディアホール

沖縄の赤土問題が社会的に注目を浴びようになって久しく、最近ではその解決・改善に向けた様々な努力が行政や民間団体等で行われるようになってきている。その背景には、赤土問題に取り組むこと自体が困難な時代に、様々な課題に挑んで道を切り開いてきた先駆者たちの存在があることを忘れてはならない。昨年の大規模サンゴ白化は、サンゴ礁生態系のレジリエンス回復・強化の重要性を改めて示しているが、そのためには栄養塩負荷対策も含めたより本格的・包括的な陸域対策が必要となる。本テーマセッションでは、このような問題認識のもとに、赤土対策の歴史的背景を振り返り、陸域対策の現状の到達点を俯瞰し、今後の取り組み方について議論を行う。

English Session

【口頭発表】

日時：11月25日(土) 11:15-15:00

会場：デジタル多目的ホール

【ポスター発表】

日時：11月24日(金) 15:15-17:45

会場：メディアホール

日本サンゴ礁学会の国際化に向けた試みとして、英語セッションを設けました。通常セッションと同じく、サンゴ礁にまつわる様々なトピックについて扱いますが、発表および、質疑応答を含め、基本的に英語で行います。

自由集会

自由集会①

トカラ列島の現生および化石サンゴ礁生物が囁く火山とサンゴ礁の魅力

オーガナイザー：田中 健太郎 (東京大・AORI)・本郷 宙軌 (琉球大・理)・藤井 琢磨 (鹿児島大・理)・岨 康輝 (JSPS PD)
 日時：11月23日(木) 18:00-20:00
 会場：講義室1 (後日ご案内します)

トカラ列島のサンゴ礁は火山活動や黒潮の影響を受けるとともに、サンゴ礁地形の北限に近いことから独特の環境で発達している。しかし、アクセスの困難さからサンゴ礁生態系に関する研究は十分に行われてこなかった。本集会ではトカラ列島サンゴ礁の研究状況を参加者と共有して研究の方向性を探る。

自由集会②

国際サンゴ礁年に向けた若手の決起集会

オーガナイザー：大野 良和 (沖縄科学技術大学院大学)
 日時：11月23日(木) 18:00-20:00
 会場：講義室2 (後日ご案内します)

国際サンゴ礁年がいよいよ来年から始まりますので、若手のメンバーを対象とした勉強会を企画しました。また、これまで日本各地で実施されたアウトリーチ活動も紹介し、情報共有の場にできればと考えています。

自由集会③

海における研究のためのフィールドワークの現状と課題

オーガナイザー：中井 達郎 (国土館大)・鈴木 倫太郎 (WWF)
 主催：調査安全委員会
 日時：11月23日(木) 18:00-20:00
 会場：講義室3 (後日ご案内します)

サンゴ礁の研究では、海での調査は必要不可欠な活動である。本集会では、この活動における最近の事故事例や問題について情報を共有し、その解決に向けた意見交換を行う事を目的とする。

自由集会④

地質・化石が囁くサンゴ礁地形・生態系変遷史 2017

オーガナイザー：岨 康輝 (JSPS PD)・本郷 宙軌 (琉球大・理)
 日時：11月24日(金) 18:00-20:00
 会場：講義室1 (後日ご案内します)

地質・化石を利用したサンゴ礁地形・生態系の変遷史復元は、本来のサンゴ礁生態系を評価できる研究アプローチである。本集会では国内外における最新の研究状況を参加者と共有して研究の方向性を探る。

自由集会⑤

蛍光撮影技術を生かした海洋生物イメージングとモニタリング-V

オーガナイザー：古島 靖夫 (海洋研究開発機構)・Sylvain Agostini (筑波大学下田臨海実験センター)・山下 洋 (水産研究・教育機構 西海区水産研究所)・丸山 正 (北里大学)・鈴木 貞男 (O.R.E.)
 日時：11月24日(金) 18:00-20:00
 会場：講義室2 (後日ご案内します)

昨年と同様に、サンゴ(海洋生物)蛍光の現場撮影技術と、海洋生物研究の融合は可能であるか? 不足技術・調査は何か? 等について、分野横断型の議論が気軽に出来る場を設けると共に、多波長励起式蛍光撮影装置による撮影結果等を踏まえて、その将来性を探ることを目的とした。

サンゴ礁保全活動 & 小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスター発表

日時：11月25日(土) 9:00-15:00
 会場：メディアホール

学会の社会連携を推進するため、サンゴ礁の保全活動を行うNPO等(非営利団体、任意団体や個人も歓迎)のポスターコーナーおよび、小・中・高校生によるサンゴ礁に関する学習・研究成果を発表するためのポスターコーナーを設置します。

公開シンポジウム

危機にあるアジア・太平洋沿岸生態系の現状と課題
ーサンゴ礁学会の「次の10年」に向けての国際連携構築へ

日時：11月26日(日) 9:30-12:00, 13:00-16:30 (参加無料)
 会場：デジタル多目的ホール

アジア・太平洋域は、Coral Triangleに代表されるように大変多様性の高い生態系を有しています。そこでの沿岸生態系は、サンゴや海草、マングローブなど様々な生物群集を包括しており、それが互いに結びつくことで豊かな生態系の基盤となっていると考えられています。しかし一方で、これらの生態系が様々な人為的な影響によって劣化の一途をたどっている現状があります。そのため、これらの生態系の基礎研究や保全に向けた科学的な知見の共有・社会への実装は急務となっており、国を超えた広いネットワークで共同研究を進めていく必要があります。本シンポジウムでは、このエリアで活躍されている国内外のサンゴ礁や沿岸生態系の研究者を招き、各地域の沿岸生態系の現状や最新の研究成果について発

表して頂くとともに、同地域における横断的連携の必要性について語って頂きます。そして日本サンゴ礁学会や学会員の国際連携・展開に向けた議論を行います。

ゲストスピーカー：

Prof. Suharsono (Research Center for Oceanography, Indonesian Institute of Sciences (LIPI))

Prof. Perry Aliño (Marine Science Institute, University of the Philippines Diliman)

Prof. Thamasak Yeemin (Ramkhamhaeng University)

Dr. Tran Dinh Lan (Institute of Marine Environment and Resources (IMER))

Dr. Yimnang Golbuu (Palau International Coral Reef Center)

Dr. Ranjeet Bhagooli (University of Mauritius)

* その他のゲストスピーカーは現在調整中です。

大会プログラム

1日目

時間 Hour	発表番号 No.	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
口頭発表 11月23日(木) 9:00-15:00 / Oral presentation 23 November (Thu) 9:00-15:00			
デジタル多目的ホール /Multi-Purpose Digital Hall			
座長 (Chair): 山下洋 (水産機構西海水研)			
09:00-09:15	O-01	造礁サンゴのストレス応答 — 色素とタンパク質からわかる世界 —	○鈴木利幸 (静岡大・創造), Beatriz E. CASARETO (静岡大・創造・グリーン), 鈴木 款 (静岡大・創造)
09:15-09:30	O-02	除草剤を曝露したウスエダミドリイシおよび褐虫藻における熱ショックタンパク質遺伝子の発現解析	南出成梧 (愛媛大・院農), 石橋弘志, ○竹内一郎 (愛媛大・院農, 愛媛大・院農・環境先端技術センター)
09:30-09:45	O-03	高水温とサンゴ病原性細菌添加のストレス下におけるサンゴからの栄養塩の放出 -Nutrients release from corals under stresses of high temperature and addition of pathogenic bacteria-	○豊田圭太 (静岡大・グリーン研), Beatriz E. CASARETO(静岡大・グリーン研, 静岡大・創造), 鈴木利幸, Sangsawan Laddawan, Nguyen Duc The, Sangmanee Kanwara, 鈴木 款 (静岡大・創造)
09:45-10:00	O-04 *	褐虫藻に依存しないコユビミドリイシの高温ストレス耐性	○善岡祐輝 (沖縄高専生物資源), 鈴木 淳 (産総研地質情報), 酒井一彦 (琉大熱生研), 井口亮 (沖縄高専生物資源)
10:00-10:15	休憩		
座長 (Chair): 鈴木利幸 (静岡大・創造)			
10:15-10:30	O-05	八重山周辺海域における2016年大規模白化後のミドリイシ属サンゴの幼生加入の激減について	○鈴木 豪, 藤倉佑治, 甲斐清香, 谷田藏, 山下洋, 林原 毅 (西水研・亜熱帯)
10:30-10:45	O-06	大規模白化後の開放性環境と遮蔽性環境でのサンゴ群集の変遷と価値評価	○中野義勝, 藤村弘行, 伊藤通浩, 須田彰一郎 (琉球大学), 竹山春子 (早稲田大学), 山根順子, 藤渕航 (京大)
10:45-11:00	O-07 *	Thermal limit of high latitude coral <i>Porites heronensis</i>	○山崎 航, Sylvain Agostini (筑波大学下田臨海実験センター)
11:00-11:15	O-08 *	ミドリイシ属サンゴと褐虫藻の共生関係はどのようにして始まるのか? ~ 研究のまとめ ~	○山下洋, 鈴木 豪, 甲斐清香, 藤倉佑治 (水産機構西海水研), 新里宙也 (OIST, 東大気海洋研), 神保充 (北里大海洋), 林原 毅 (水産機構西海水研), 小池一彦 (広大院生物園科)
11:15-11:30	休憩		
座長 (Chair): 伊藤通浩 (琉大・熱生研)			
11:30-11:45	O-09 *	アオサンゴ集団ゲノム解析~黒潮流域と西オーストラリアの隠蔽系統比較	○谷中絢貴 (宮崎大・院・海洋), Zoe Richards (Curtin univ.), 陶山佳久, 満行知花 (東北大・院・農), 菊池泰生, 吉田朱美 (宮崎大・医), 湯浅英知 (宮崎大・院・農国), 安田仁奈 (宮崎大・TT)
11:45-12:00	O-10 *	温帯ミドリイシサンゴの集団遺伝解析~最新集団遺伝解析 MIG-seq によるアプローチ~	○志村晶史 (宮崎大・農), 相澤浩明, 中村隆志 (東工大・環境・社会理工), 山北剛久 (JAMSTEC), 北野裕子 (琉球大・熱生研), 井口亮 (沖縄高専・生物資源), 山野博哉 (国環研), 安田仁奈 (宮崎大・TT)
12:00-12:15	O-11 *	ハナヤサイサンゴ類似種群の黒潮流域における遺伝的分布勾配	○北野裕子 (琉球大・熱生研), 谷中絢貴, 松田太樹 (宮崎大・農), 山北剛久 (海洋研究開発機構), 上野光弘 (石西礁湖サンゴ礁調査), 井口亮 (沖縄高専), 野澤洋耕 (台湾中央研究院), 深見裕伸 (宮崎大・農), 安田仁奈 (宮崎大・TT)
12:15-12:30	O-12	造礁サンゴ染色体研究の進展	○田口尚弘 (高知大・院黒潮圏), 目崎拓真 (黒潮生物研), 富永明, 久保田賢 (高知大・院黒潮圏)
12:30-14:00	休憩		
座長 (Chair): 樋口富彦 (東大・大海研)			
14:00-14:15	O-13 *	コユビミドリイシにおける蛍光タンパク質遺伝子族の発現と機能解析	○高橋 (飯屋園) 志帆, 寺井洋平 (総研大・先導研)
14:15-14:30	O-14	温帯塊状ハマサンゴの石灰化部位における炭酸系・pHの動態解明	○嶋 康輝 (JSPS PD), 田中健太郎 (東京大・AORI), 渡邊 剛 (北大・院理), Jens Zinke(Freie Universität Berlin), 野村恵一 (串本海中公園センター), Malcolm McCulloch (The University of Western Australia)
14:30-14:45	O-15 *	タイムゲート法を用いたサンゴ造骨組織の生体イメージング	○大野良和 (OIST)
14:45-15:00	O-16	Black Band Disease のバンド内における細菌群の構成と局在性	○和田直久 (BRC・Academia Sinica), 井口亮 (沖縄高専・生物資源), 占部雄太, 林 修史 (日大・生物資源), 善岡祐輝 (沖縄高専・生物資源), 河鍋咲恵子, 間野伸宏 (日大・生物資源)

口頭発表 11月23日(木) 11:30-15:00 / Oral presentation 23 November (Thu) 11:30-15:00

コラボレーションルーム /Collaboration Room			
座長 (Chair): 座安佑奈 (OIST・マリンゲノミクス)			
11:30-11:45	O-17	琉球列島におけるジュゴン個体数の減少と人間活動	○茅根 創 (東京大・理), 原 武史 (全国水産技術者協会), 荒井修亮 (京都大・フィールド研究センター), 山野博哉 (国立環境研・生物生態環境研センター), 松田裕之 (横浜国大・環境情報)
11:45-12:00	O-18	インドネシア・マナド海域におけるサンゴ礁保全について	○ヤップ・ミンリー (東京海洋大学), Andreas Kakaskasen ROEROE (Sam Ratulangi Univ.)
12:00-12:15	O-19	パヌアツのヤコウガイ資源再生-親を密集移植して受精率を高める	○鹿熊信一郎 (沖縄県海洋深層水研究所), 寺島裕晃 (アイ・シー・ネット)
12:15-12:30	O-20	スギノキミドリイシを用いたサンゴの人為的産卵誘発技術の開発	○林 正裕, 渡邊裕介, 山本 雄三 (海生研), 諏訪偉太 (OIST), 鈴木 淳 (産総研)
12:30-14:00	休憩		
座長 (Chair): 佐藤崇範 (学習院大学大学院)			
14:00-14:15	O-21	海岸と自然に関するヤンバル地域住民の意識	○田代 豊, 園田広海 (名桜大・国際)
14:15-14:30	O-22	全国の学校への海洋教育助成制度 「海洋教育パイオニアスクールプログラム」活動報告	○中村修子 (笹川平和財団, 海洋政策研究所), 茅根 創 (東京大・理)
14:30-14:45	O-23	八重山地方のサンゴ礁生態系に関わるステークホルダーの相関構造とローカル環境認証制度の適用可能性	○宮本善和 (石西礁湖サンゴ礁基金), 鈴木倫太郎 (WWF サンゴ礁保護研究センター)
14:45-15:00	O-24	観光資源としてのサンゴ活用と経済活性化-和歌山の場合-	○齊藤久美子 (和歌山大・経済)

2日目

口頭発表 11月24日(金) 9:00-15:00 / Oral presentation 24 November (Fri) 9:00-15:00

デジタル多目的ホール /Multi-Purpose Digital Hall			
座長 (Chair): 和田直久 (Academia Sinica)			
09:00-09:15	O-25	<i>Acropora tenuis</i> 共生細菌叢の長期定着観測	○伊藤通浩 (琉大・熱生研, 早大・ナノ・ライフ), 岡田直子 (早大・ナノ・ライフ), 丸山 徹 (早大・先進理工), 藤村弘行 (琉大・理), 中野義勝 (琉大・熱生研), 新里宙也 (東大・気海洋研, OIST・マリンゲノミクス), 座安佑奈 (OIST・マリンゲノミクス), 須田彰一郎 (琉大・理), 竹山春子 (早大・ナノ・ライフ, 早大・先進理工)
09:15-09:30	O-26 *	The relationship between the similarity of shell communities and runoff effects in intertidal zone of Okinawa island -past to present- / 沖縄の潮間帯における貝類群集の類似度と排水効果の関連性-過去と現在-	○水山 克 (琉球大・院理工), K. L. Dudley (OIST), 井口亮 (沖縄高専・生物資源), E. P. Economo (OIST), J. D. Reimer (琉球大・理)
09:30-09:45	O-27	A hope for shallow reef recovery? Adaptation of deep <i>Seriatopora</i> to shallow conditions	Rian Prasetya, Frederic Sinniger (琉球大・熱生研), 中村 崇 (琉大・理), ○波利井佐紀 (琉球大・熱生研)

09:45-10:00	0-28	*	奄美大島周辺海域におけるアミトリセンベイサンゴの分布北限記録と砂泥底性生物群集の特異性について	○藤井琢磨 (鹿大・島嶼研), 立川浩之 (千葉県立中央博物館分館海の博物館), 横地洋之 (東海大学海洋学部)
10:00-10:15	休憩			
座長 (Chair): 藤村弘行 (琉球大・理)				
10:15-10:30	0-29		高 CO ₂ ・高水温環境にサンゴは適応可能か?	○栗原晴子, 津木あさみ, 三村泉美, 本郷宙軌, James D. Reimer (琉大 理), 渡邊 敦 (東工大 情報理工), Yimnang Golbuu (PICRC)
10:30-10:45	0-30		石垣島吉原海岸におけるビーチロック形成過程 - 海水中の炭酸系日周変動 -	○山本将史, 茅根 創 (東大・理), 山木克則, Boon Keng Lim (鹿島建設)
10:45-11:00	0-31	*	低緯度~高緯度にわたる広域に適用可能なクシハダミドリシの一斉産卵日予測のための有効積算水温の再検討	○相澤浩明, 中村隆志 (東工大・環境社会理工), 安田仁奈 (宮崎大・農), 山北剛久 (JAMSTEC)
11:00-11:15	0-32	*	石垣島名蔵湾を対象とした三次元海水流動・水温シミュレーションによるサンゴ白化リスク評価と生残可能域の検討	○天野慎也, 中村隆志, 渡邊 敦 (東工大・環境・社会理工), Lawrence Bernardo (東工大・土木), Ratino Sith (東工大・情報環境), 宮島利宏 (東大・大気海洋研), 灘岡和夫 (東工大・環境・社会理工)
11:15-11:30	0-33		マングローブ植生動態モデルの開発のための植生動態モデル SEIB-DGVM と 3 次元流動モデル ROMS の結合システム	○中村隆志 (東工大・環境・社会理工), 安岡潤 (東工大・院・情報環境), Sahadev Sharma (東工大・院・情報環境, University of Hawaii), 江川遼平 (東工大・院・情報環境), 森高大 (東工大・院・土木), 吉開仁哉, 出浦孝之 (東工大・環境・社会理工), 諏訪錬平 (森林総研), 灘岡和夫 (東工大・環境・社会理工)
11:30-11:45	休憩			

テーマセッション① 海洋生物における多様性の創出と維持—繁殖の役割を考える—

座長 (Chair): 具志美香子 (沖縄高専・生物資源)

11:45-11:50	セッションの概要紹介 (磯村)			
11:50-12:05	0-34		ミドリシ属サンゴの雑種体はすべて生き残ることができるのか?	○磯村尚子 (沖縄高専・生物資源), 岩尾研二 (阿嘉島臨海研究所), 守田昌哉 (琉球大・熱生圏), 深見裕伸 (宮崎大・農)
12:05-12:20	0-35	*	ミドリシ属サンゴ交雑体は F2 世代を形成しうるか?	○北之坊誠也 (琉球大 熱生研), 磯村尚子 (沖縄高専 生物資源), 深見裕伸 (宮崎大 農学), 岩尾研二 (阿嘉島臨海), 守田昌哉 (琉球大 熱生研)
12:20-12:30	総合討論			
12:30-14:00	休憩			

テーマセッション② 沖縄県におけるオニヒトデ大量発生 / Possible causal factors of the Crown-of-Thorns Seastar Outbreaks in Okinawa

座長 (Chair): 岡地 賢 (コーラルクエスト)

14:00-14:05	セッションの概要紹介 (岡地)			
14:05-14:20	0-36		稚仔期オニヒトデの成長と死亡率	○岡地 賢 (コーラルクエスト), 山川英治, 北村 誠 (沖縄県環境科学センター), 山鹿典子, 金井 恵 (沖縄県環境科学センター), 小笠原敬 (沖縄県環境科学センター)
14:20-14:35	0-37	*	オニヒトデ精子の運動性と受精率	○東村幸浩 (宮崎大・農学研究科), 志村昌史 (宮崎大・農学部), 湯浅英知 (宮崎大・農学研究科), 安田仁奈 (宮崎大・IT 機構)
14:35-14:50	0-38		オニヒトデ幼生分散のコネクティビティから大発生を予測できるか?	○熊谷直喜 (国立環境研・生物セ), 山川英治 (沖縄県環境科学センター), 岡地 賢 (コーラルクエスト)
14:50-15:00	総合討論「オニヒトデ大量発生の理解にむけた課題」			

口頭発表 11月24日 (金) 10:15-11:30 / Oral presentation 24 November (Fri) 10:15-11:30

コラボレーションルーム / Collaboration Room

座長 (Chair): 鹿熊信一郎 (沖縄県海洋深層水研究所)

10:15-10:30	0-39		サンゴ幼生供給基地の造成によるサンゴの面的増殖技術開発	○塚本拓人, 田村圭一, 山本秀一, 岡田 亘 (株式会社エコー), 鈴木 豪, 林原 毅 (国立研究開発法人水産研究・教育機構 西海区水産研究所), 安藤 亘 (一般社団法人 水産土木建設技術センター), 不動雅之, 野神巧一 (水産庁)
10:30-10:45	0-40		GMC 技術導入による生育棚の自動電場切り替え方法	○木原一祐, 細川恭史, 小川良亮 (エム・エムブリッジ), 鯉淵幸夫 (東京大学), 山本 悟 (日本防食), 近藤康文, 雨宮一考 (シービーファーム), 山本秀一 (エコー)
10:45-11:00	0-41		GMC 技術におけるサンゴの最適電流密度と温度耐性について	○鯉淵幸生 (東大院・新領域), 木原一祐, 細川恭史 (MMブリッジ), 山本 悟 (日本防食), 近藤康文 (CPファーム), 山本秀一 (エコー)
11:00-11:15	0-42		コーラルネットを用いたサンゴ群集の再生 — 慶良間諸島国立公園・那覇港の事例 —	○山木克則, 新保裕美, 田中昌宏 (鹿島建設)
11:15-11:30	0-43		宮古島 1 0 0 日間のサンゴ白化観察 (撮影) 報告	○猪澤也寸志 (エコガイドカフェ)

3日目

口頭発表 11月25日 (土) 9:00-15:00 / Oral presentation 25 November (Sat) 9:00-15:00

デジタル多目的ホール / Multi-Purpose Digital Hall

テーマセッション③ サンゴ礁生態系レジリエンス回復の切り札とは?—赤土対策の歴史・現状を知り大規模白化時代の陸域対策の意義とあり方考える

座長 (Chair): 中野義勝 (琉球大・熱生研)

09:00-09:05	セッションの趣旨説明 (金城)			
09:05-09:30	0-44		赤土等流出問題の歴史的背景	○大見謝辰男 (元沖縄県衛生環境研究所赤土研究室長)
09:30-09:42	0-45		赤土汚染問題への水産サイドの対応	○鹿熊信一郎 (沖縄県海洋深層水研究所)
09:42-09:54	0-46		沖縄県における赤土等流出防止対策に関する取り組み	○仲宗根一哉 (沖縄県環境保全課)
09:54-10:09	0-47		サトウキビ株出栽培による赤土流出防止活動	○千川 明 (NPO 法人石西礁湖サンゴ礁基金)
10:09-10:21	0-48		沖縄県におけるサンゴ礁海域への栄養塩負荷の変遷と現状	○金城孝一 (沖縄衛研)
10:21-10:33	0-49		サンゴ礁生態系レジリエンス向上のための包括的陸域負荷対策の必要性と課題	○灘岡和夫 (東工大 環境・社会理工)
10:33-11:00	総合討論			
11:00-11:15	休憩			

English session

座長 (Chair): Frederic Sinniger (Univ. of the Ryukyus)

11:15-11:30	0-50		An Evaluation of Sewage on Coral Reefs: A case study in Malakal Bay, Palau	○Otto, E., Hongo, C., Mimura, I., Kurihara, H. (Univ. of the Ryukyus)
11:30-11:45	0-51		Tara Pacific - Japan Leg: Insights on the tropicalization mechanisms of marine ecosystems	○Sylvain Agostini (Shimoda Marine Research Center, University of Tsukuba), Yohei Nakamura (Kochi University), Hironobu Fukami (Miyazaki University), Maggy Nuges, Natacha Roux (CRIOBE, France), Yuko Kitano (Miyazaki University), Shoji Yamamoto (University of Tokyo), Sarah Romac (Biological Station of Roscoff), Nicolas Floch (Ecole Supérieure d'Art de Bretagne), David Lecchini (CRIOBE, France)
11:45-12:00	0-52		Linking regional and local water temperature trends for Shiraho Reef, Okinawa, Japan based on sensor data analyses and numerical simulations	○Lawrence Patrick Bernardo, Kazuo Nadaoka, Takashi Nakamura, Atsushi Watanabe (Tokyo Tech)
12:00-12:15	0-53		Primary production and nitrogen fixation of endolithic algae associated with the massive coral <i>Porites lutea</i>	Laddawan SANGAWANG, ○Beatriz E. CASARETO, Hideo OHBA, Hung Manh Vu, Aussanee Meekaw, Toshiyuki SUZUKI (Shizuoka Univ.), Thamasak YEEMIN (Ramkhamhaeng Univ.), Yoshimi SUZUKI (Shizuoka Univ.)

12:15-12:30	O-54 *	Coral fragments infected with disease effects larval settlement and survivorship in experimental conditions	○ Rocktim Ramen Das, Hideyuki Yamashiro (University of the Ryukyus)
12:30-14:00			休憩
座長 (Chair) : Sylvain Agostini (Univ. Tsukuba)			
14:00-14:15	O-55	Recruitment potential of corals in North Sulawesi, Indonesia	○ Kakaskasen Andreas Roeroe (Sam Ratulangi University), Yap Minlee (Tokyo University of Marine Science and Technology)
14:15-14:30	O-56	Is Okinawa a hot spot of mesophotic coral biodiversity in the world?	○ SINNIGER Frederic (琉球大・熱生研), PICHON Michel (Museum of Tropical Queensland), PRASETIA Rian, ROUZE Héloïse (琉球大・熱生研), 波利井佐紀 (琉球大・熱生研)
14:30-14:45	O-57	Antipathogenic Activity of Bacteria Associated with Acroporid Corals against Black Band and White Pox Disease of Karimunjawa Archipelago	○ D.P. Wijayanti, D. Dirgantara, A. Sabdono, P. A. Widyananto, A. Sabdono (Diponegoro University)
14:45-15:00	O-58	Genetic structure and demographic history of Indo-Pacific coconut crab (<i>Birgus latro</i>)	Chai Hsia Gan, ○ Sung-Yin Yang, Chaolun Allen Chen (Academia Sinica)

発表番号 No.	発表題目 Title	発表者 (所属) Authors (Affiliation)
----------	------------	--------------------------------

ポスター発表 11月23日 (木) 15:15-17:45 / Oral presentation 23 November (Thu) 15:15-17:45

メディアホール /Media Hall

P-01	塊状ハマサンゴ骨格の化学組成・同位体比を用いたパラオ・アイライ湾の土砂流入量変遷史	○ 堀 康輝 (JSPS PD), 酒井康祐 (東邦大・理), 本郷宙軌 (琉球大・理), 山口耕生 (東邦大・理), 田中健太郎 (東京大・AORI), 白井厚太郎 (東京大・AORI), 坂井三郎 (JAMSTEC), 栗原晴子 (琉球大・理)
P-02	沖縄・瀬底島クマリ浜サンゴ礁の地形的特性とそれに起因する海水流動・堆積物挙動の特性 ~閉じられた Channel(水路)~	○ 中井達郎 (国士館大学)
P-03	伊豆下田における造礁サンゴ軟体部の安定同位体比変動	○ 樋口富彦 (東大・大海研), 藤村弘行 (琉球大・理), 田中健太郎, 白井厚太郎 (東大・大海研), Agostini Sylvain (筑波大・下田臨海)
P-04	サンゴ礁生態系に注目したグリーンインフラストラクチャー — 強大化台風と海面上昇に対する適応策 —	○ 本郷宙軌, 栗原晴子 (琉球大・理), JST-JICA SATREPS), Yimnang GOLBUU (Palau International Coral Reef Center), 木口雅司 (東大・生産研)
P-05	慶良間諸島におけるサンゴ被度の面的な変化	○ 佐野 滝雄, 五島 幸太郎 (アジア航測)
P-06	ドローンによる空撮によって確認された瀬底島沖のハマサンゴの巨大マイクロアトール	○ 竹内一郎 (愛媛大院・連合農学, 愛媛大院・環境先端技術センター), ○ 山城秀之 (琉球大・熱生研・瀬底)
P-07	慶良間諸島における高解像度衛星画像を用いたサンゴ礁分布図	○ 有安恵美子, 角田里美, 五島幸太郎, 佐野滝雄 (アジア航測株式会社)
P-08 *	Google Earth 画像を用いた Spectral Unmixing 法によるサンゴ礁域の水深および生物群集被度の同時推定	○ 山田武輝 (東工大・工), 中村隆志, 中山美織, 瀧岡和夫 (東工大・環境・社会理工)
P-09	白保裾礁内における水・熱収支モデルの構築	○ 渡部耕太 (東工大・工), 中村隆志, 渡邊 敦 (東工大・環境・社会理工), Lawrence Patrick BERNARDO (東工大・院・土木), 白井秀治 (東工大・工), 瀧岡和夫 (東工大・環境・社会理工)
P-10 *	LED を利用した光条件操作によるミドリイシ属サンゴ類の成長促進	○ 和泉遼太郎 (琉球大・院理), 比嘉妃奈子, 竹村明洋 (琉球大・理)
P-11 *	流動環境下における造礁サンゴ群集の代謝応答の現場観測	○ 白井秀治 (東工大・工), 中村隆志, 渡邊 敦 (東工大・環境・社会理工), 渡部耕太 (東工大・工), 瀧岡和夫 (東工大・環境・社会理工)
P-12	異なるサンゴ礁生物群集における一次生産量の比較	○ 藤村弘行 (琉球大・理), 中野義勝 (琉球大・熱生研), 須田彰一郎 (琉球大・理), 伊藤道浩 (琉球大・熱生研), 竹山春子 (早大・先進理工)
P-13	パラオサンゴ礁における石灰化速度の時空間的特性	○ 渡邊 敦 (東工大・環境社会), 栗原晴子, 本郷宙軌, 三村泉美, 河井 崇 (琉球大・理), Yimnang Golbuu (Palau International Coral Reef Center)
P-14	ROV and AUV exploration of the mesophotic reef zone around the Sekisei Lagoon, South Ryukyus	○ Humblet M. (Nagoya Univ.), Maki, T. (Univ. of Tokyo), Furushima, Y. (JAMSTEC), Noguchi, Y., Kuranaga, K., Sakamaki, T. (Univ. of Tokyo), Ito, S., Yoshiga, S. (Ambient Intelligence Technologies Lab.)
P-15	Distribution and ultrastructure of the corals <i>Porites</i> in the Gulf of Thailand	○ Sittiporn Pensakun, Thamasak Yeemin, Makamas Sutthacheep, Wichin Suebpa, Watchara Samsuvan, Wiphawan Aunkhongthong (Ramkhamhaeng Univ.)
P-16 *	沼津市久連のエダミドリイシ群集におけるガンガゼの食害の経月変化	○ 青木 航, 小黒裕之, 原田海帆, 渡邊大城 (東海大・海洋・水産), 中島 匠 (東海大学・教養セ), 松永育之 (東海アクアーツ), 中村雅子 (東海大・海洋・水産)
P-17	ウミキノコ <i>Sarcophyton</i> sp. の再生に関する研究	○ 小柳山篤志, 小林大祐, 神保 充 (北里大・海洋)
P-18 *	四国南海域における有藻性イシサンゴ群集の時空間的変動	○ 佐野 聡 (東海大・院海洋), 紺野 透, 横山太平, 中村雅子 (東海大・海洋・水産), 目崎拓真 (黒潮生物研究所)
P-19	石垣島における水柱と間隙水の栄養塩濃度および底質の比較からみるサンゴ礁生物群集組成の成因	○ 中山美織, 中村隆志, 渡邊 敦 (東工大・環境・社会理工), 山田武輝 (東工大・土木)
P-20	高知県土佐清水市竜串地先海域における有藻性イシサンゴ類の群集遷移	○ 目崎拓真, 中地シュウ (公財黒生研), 戸篠 祥 (琉大・熱生研), 佐野美月 (竜串ダイビングセンター)
P-21	Assessing microplastics pollution from coral communities in Thai waters	○ Makamas Sutthacheep, Thamasak Yeemin, Sittiporn Pensakun, Wanlaya Klinthong, Charernmee Chamchoy (Ramkhamhaeng Univ.)
P-22	Coral recruitments at an offshore coral community, Ko Losin, Pattani Province, the Gulf of Thailand	○ Thamasak Yeemin, Makamas Sutthacheep, Sittiporn Pensakun, Watchara Samsuvan, Juthamart Puthayakool (Ramkhamhaeng Univ.)
P-23 *	瀬底島におけるコビミドリイシの繁殖投資量の年比較	○ 石持みずき, 池内絵里 (琉球大院・理工), 井口 亮 (沖縄高専・生物資源), 中村 崇 (琉球大・理)
P-24	Impacts of anthropogenic disturbances on coral health and disease in the Gulf of Thailand	○ Watchara Samsuvan, Thamasak Yeemin, Makamas Sutthacheep, Laongdow Jungtrak, Teerapong Prickchoopon (Ramkhamhaeng Univ.)
P-25 *	海洋酸性化が付着生物の加入定着に及ぼす影響評価実験	○ 宮城愛夏, 善岡祐輝, 井口 亮 (沖縄高専・生物資源), 山城秀之, 酒井一彦 (琉大熱生研), 林 正裕 (海洋生物環境研究所), 鈴木 淳 (産総研地質情報), 野尻幸宏 (国環研)
P-26 *	西表島網取湾において 2016 年の大規模白化現象が造礁サンゴの群集被度と幼生加入に与えた影響	○ 曾山佳史 (東海大・海洋・水産), 竹下遥平 (東海大・海洋・海生), ○ 池田樹 (東海大・海洋・水産), 村上智一 (防災科学技術研究所), 河野裕美 (沖縄地域网), 中村雅子 (東海大・海洋・水産)
P-27 *	八重山における 2016 年のサンゴ群集白化後の状況	○ 小島香葉, Mariyam Shidha Afzal (Environment Protection Agency Senior Research Officer), 石持みずき (琉大・院理工), 八木美沙希, 徳田佑大, 中村 崇 (琉大・理)
P-28 *	魚類は白化したハマサンゴを見分けるか〜長期モニタリングによるアプローチ〜	○ 池内絵里 (琉球大・院理), 井口 亮 (沖縄高専・生物資源), 中村 崇 (琉球大・理), JST/JICA SATREPS)
P-29	Response to seawater temperature stress in corals from Dongsha Atoll, South China Sea	○ Shashank Keshavmurthy, Sung-Yin Yang, Ya-Yi Huang (Academia Sinica), Chaolun Allen Chen (Academia Sinica, National Taiwan University)
P-30 *	多様な地域・宿主から分離した褐虫藻 (<i>Symbiodinium</i> 属 渦鞭毛藻) の遺伝的多様性と高温および強光下における光合成活性の関係	○ 小出昌美 (広島大生物圏), 山下 洋 (水産機構西海水研), 森島慎也, 小池一彦 (広島大生物圏)
P-31 *	ウスエダミドリイシの白化による抗酸化酵素活性の変動	○ 宮内亜子 (琉球大・院理), 藤村弘行 (琉球大・理), 中野義勝 (琉球大・熱生研), 須田彰一郎 (琉球大・理), 伊藤道浩 (琉球大・熱生研), 竹山春子 (早大・先進理工)
P-32	白化時のサンゴ・褐虫藻の応答一骨格形成の低下・免疫系の活性化など	○ 湯山育子 (筑波大・生命環境)

ポスター発表 11月24日 (金) 15:15-17:45 / Oral presentation 24 November (Fri) 15:15-17:45

メディアホール /Media Hall

P-33	環境 DNA 技術による海水からのサンゴ・褐虫藻検出の試み	○ 新里宙也 (東大・大海研), 座安佑奈 (OIST・MGU), 神田美幸, 川満真由美 (OIST・SQC), 佐藤矩行 (OIST・MGU), 山下 洋, 鈴木 豪 (水研機構西海水研)
P-34	ミドリイシサンゴの染色体分析	○ 田辺秀之 (総研大・先端科学), 加藤伶奈, 服田昌之 (お茶の水女子大・理・生物)

P-35 *	八重山諸島周辺における稚サンゴを含むトゲサンゴの遺伝構造	○野口七海(宮大院海洋), 渡利井佐紀, Frederic Sinniger(琉大), 長井 敏(水研), 上野光弘(石西礁湖調査), 安田仁奈(宮大TT)
P-36	環境グラディエントマーカーを用いたハナヤサイサンゴの集団遺伝解析	○松田太樹(宮崎大・農), 北野裕子(琉球大・熱生研), 井口亮(沖縄工専) 山北剛久(JAMSTEC), 安田仁奈(宮崎大・TT)
P-37 *	四国西南海域におけるオニヒトデの個体群動態	○安達颯太(東海大・院), 中地シュウ(公財・黒潮生物研究所), 中村雅子(東海大)
P-38 *	全ゲノム情報に基づく太平洋とインド洋のオニヒトデの比較解析	○高橋和希, 梶谷 嶺(東工大), 湯浅英知(宮崎大, 東工大), Naline Thongtham, Niphon Phongsuwan (Phuket Marine Biological Center), Zac Forsman (Hawaii Institute of Marine Biology), 安田仁奈(宮崎大), 伊藤武彦(東工大)
P-39 *	コーラルトライアングルを中心としたオニヒトデの集団ゲノム解析	○斐岩美月(宮崎大・海洋), 谷中純貴(宮崎大・農研), 湯浅英知(宮崎大・農研), 安田仁奈(宮崎大・TT)
P-40 *	異所的に種分化したオニヒトデ種間での受精遺伝子の進化	○湯浅英知(宮崎大・院・農国, 東工大・院・生命理工), 梶谷 嶺, 高橋和希, 吉村大(東工大・院・生命理工), 小椋義俊(九州大・院・医), Zac Forsman (HIMB), Naline Thongtham, Niphon Phongsuwan (PMBC), Coralie Taquet (UMR 241 ILO), Marc Taquet (IRD), 林哲也(九州大・院・医), 伊藤武彦(東工大・院・生命理工), 安田仁奈(宮崎大・TT)
P-41 *	沖縄島におけるリュウモンサンゴ属群で見られる黒帯状サンゴ病の発現状況	○久保村俊己(琉球大・院理工), James Davis REIMER(琉球大・理, 琉球大・熱生研)
P-42 *	沖縄県瀬底島周辺における A. donei と A. tenuis の性成熟について	○佐久本可奈子, 北之坊誠也(琉球大 院理), 磯村尚子(沖縄高専), 深見裕伸(宮崎大), 岩尾研二(阿嘉島臨海), 守田昌哉(琉球大 熱生園)
P-43	褐虫藻獲得に伴う発現タンパク質の変化	○神保 充(北里大・海洋), 山下 洋, 鈴木 豪(水産機構・亜熱帯研究センター), 新里宙也(東大・大気海洋研), 安元 剛, 渡部終五(北里大・海洋)
P-44	サンゴ産卵期における神経伝達物質の動態	○平良淳誠, 比嘉 慈, 土田永渡, 磯村尚子, 井口亮(沖縄高専・生物資源工学科)
P-45	ウミキノコ <i>Sarcophyton</i> sp. の生体防御機構に関する研究	○廣石隆文, 神保 充, 山田雄一郎, 山口峰生, 小橋山篤志(北里大海洋)
P-46 *	ハマサンゴ (<i>Porites australiensis</i>) のセルラーゼの探索と活性評価	○宮里春奈, 善岡祐輝, 田邊俊朗, 井口亮(沖縄高専・生物資源)
P-47 *	抗活性酸素剤によるサンゴ幼生の生存率の向上の実現	○元根啓佑(京大院農), 高木俊幸(東大気海洋研), 油屋駿介, 青木 航, 三浦夏子(京大院農), 竹山春子(早稲田大理工), 長崎幸夫(筑波大院数理工), 新里宙也(東大気海洋研), 植田充美(京大院農)
P-48 *	シャコガイ類から放出された糞中褐虫藻の観察	○森島慎也(広島大生物園), 山下 洋(水産機構西海水研), 南 洋一(沖縄県水産海洋技術七石町), 小出昌美, 小池一彦(広島大生物園)
P-49	飼育枝状ミドリイシの産卵はいつ起こる? ~ 15 年間の観察データより	○山本広美(沖縄美ら島研究センター), 池内絵里, 河村伊織(琉球大学理学研究科), 金谷悠作, 永田史彦, 渡久地俊矢, 高岡博子(沖縄美ら海水族館), 野中正法(沖縄美ら島研究センター), 野澤洋耕(台湾中央研究院)
P-50 *	Detection of sex steroids in the scleractinian coral, <i>Acropora tenuis</i>	○EeSuan Tan, 和泉遼太郎(琉球大・院理), 石井貴広(琉球大・農), 竹内悠記, 竹村明洋(琉球大・理)
P-51	浦添第一防波堤に導入されたサンゴの加入・成育を促すタイドプールについて	具志良太, 仲村進一, 富田和之(沖縄総合事務局), 桑江朝比呂, 棚谷灯子(港湾空港技術研究所), 岩村俊平, 岡田 亘, 高橋由浩(株式会社エコー)
P-52	大規模移植されたアオサンゴの幼生保育・放出の確認	前里 尚, 平野年洋(内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 那覇空港新滑走路整備推進室), 岡田 亘, 岩村俊平, 高橋由浩(株式会社エコー), 毛塚大輔, 池原浩太(いであ株式会社)
P-53	沖ノ島島におけるサンゴの移植	○片山悦治郎, 小松俊晶, 米澤泰雄(国際航業), 安藤 亘(一社) 水産土木建設技術センター, 不動雅之(水産庁)
P-54	GMC 技術の 10 年間の研究変遷	木原一嶺, 細川恭史, 小川良亮(エム・エムブリッジ), 鯉淵幸夫(東京大), 山本悟, 森井一雄(日本防蝕工業), 近藤康文, 雨宮一考(シービーファーム), 山本秀一(エコー)
P-55 *	八重山のナマコ漁業—取引記録と聞き取り調査による乱獲期と現在の比較	○谷田 巖(水産機構西海水研), 牧野清人(沖縄水海技セ), 名波 敦(水産機構西海水研), 林原 毅(水産機構西海水研)

English session

P-56	Coral community structure in Palau	○Takashi Nakamura, Yeong Shyan Yuen(琉大・理), Marine Gouezo, Yimnang Golubuu(パラオ国際サンゴ礁センター)
P-57	Role of Sea Current in Dispersal of Coral Larvae in Karimunjawa Archipelago, Java Sea, Indonesia	○Elis Indrayanti, Diah Permata Wijayanti, Agus Sabdon, Muhammad Zainuri(Diponegoro University of Semarang, Indonesia)
P-58 *	Effect of glycerol concentration on the growth and antimicrobial activity of the bacteria associated with the coral <i>Montipora digitata</i>	○Nguyen Duc The, Casareto Beatriz Estela, Thummasan Monthaphat, Dinh Van Nhan, Toyoda Keita, Suzuki Toshiyuki, Suzuki Yoshimi(Shizuoka University)
P-59 *	Grazing rates of two scleractinian corals: response under healthy vs. bleached conditions	○Sangmanee Kanwara, Casareto Beatriz Estela, Sangsawang Laddawan, Thummasan Monthaphat, Toyoda Keita, Suzuki Yoshimi(Shizuoka University)
P-60	OPTIMIZING AMMONIUM SULPHATE FOR THE ISOLATION OF EXTRACELLULAR PROTEASE ENZYME DERIVED FROM THREE INDIGENOUS SEDIMENT BACTERIA OF MANGROVE ECOSYSTEM AT KARIMUNJAWA, JEPARA	○Wilis Ari Setyati, Rini Pramesti, Subagiyo(Diponegoro University), Muhammad Zainuddin(Universitas Islam Nahdlatul Ulama), Maya Puspita(Diponegoro University, University of South Britann)
P-61 *	Prime refuge of <i>Acropora</i> at Losin Island, the Gulf of Thailand	○Mathinee YUCHAROEN(Marine and Coastal Resources Institute, Prince of Songkla University), Anchalee CHANKONG, Santi NINWAT(Department of Marine and Coastal Resources)

テーマセッション① 海洋生物における多様性の創出と維持—繁殖の役割を考える—

P-62 *	ミドリイシ属サンゴの種内交配における精子選択性	○具志美香子, 磯村尚子(沖縄工業高等専門学校・生物資源)
--------	-------------------------	-------------------------------

テーマセッション② 沖縄県におけるオニヒトデ大量発生 / Possible causal factors of the Crown-of-Thorns Seastar Outbreaks in Okinawa

P-63 *	オニヒトデの幼生期における飢餓耐性: ビビンナリア期の場合	○樋口純平, 城聖人, 田所良幸, 中富伸幸(創価大), 岡地賢(有限会社コーラルクエスト), 山本修一(創価大)
P-64	オニヒトデの幼生期における飢餓耐性: プラキオラリア期の場合	○樋口純平, 城聖人, 田所良幸, 中富伸幸(創価大), 岡地賢(コーラルクエスト), 山本修一(創価大)
P-65 *	安定同位体比を用いたオニヒトデ浮遊幼生期の食性解析	○田所良幸, 中富伸幸, 樋口純平(創価大), 岡地賢(有限会社コーラルクエスト), 山本修一(創価大)

テーマセッション③ サンゴ礁生態系レジリエンス回復の切り札とは?—赤土対策の歴史・現状を知り大規模自化時代の陸域対策の意義とあり方考える

P-66	沖縄島におけるサンゴ礁海域への微量有害物質の流出	○田代 豊, 西谷卓巳(名桜大・国際)
------	--------------------------	---------------------

ポスター発表 11月25日(土) 9:00-15:00 / Oral presentation 25 November (Sat) 9:00-15:00

メディアホール / Media Hall

サンゴ礁保全活動ポスターコーナー

P-67	那覇空港周辺海域におけるサンゴの自化状況(2016年)	前里 尚, 平野年洋(内閣府沖縄総合事務局 那覇港湾・空港整備事務所 那覇空港新滑走路整備推進室), 毛塚大輔, 新宅航平, 中西喜栄(いであ株式会社), 岡田 亘, 岩村俊平(株式会社エコー)
P-68	リーフチェック 20年を振り返る	○土川 仁(コーラル・ネットワーク), 宮本育昌(コーラル・ネットワーク)
P-69	慶良間諸島国立公園におけるコーラルネットを用いたサンゴ再生活動	○宮城 清(座間味ダイビング協会 保全対策委員会), 比嘉勝太(座間味村漁業協同組合), 山本克則(鹿島建設), 中野裕治(タキノンプロテック), 中村良太(水産土木建設技術センター)

小・中・高校生によるサンゴ礁研究ポスターコーナー

P-70	光質・塩濃度・褐虫藻から考察するサンゴの成長に最も適する環境	都築寛源, 寺島海, 杉浦美帆, 村松澄香(玉川学園高等部サンゴ研究部)
P-71	海の化石ハンターズ	福山統生, 長谷川光夏, 玉利彩葵, 細川 樹, 有村遥希(喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-72	サンゴ礁の生き物の年齢調査	今井康聖, 勝暗 晴, 仁村晴王, 渡邊翔太郎, 當房瑛人(喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-73	ハワイの生き物	釜口慎太郎, 徳孝之佑, 長浜あさひ, 榮 昌治, 大富葉登, 川本春基(喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-74	過去から現在の海の環境とサンゴの成長	北園凜気, 出羽空, 宮崎紗世, 中山吾, 杉保駿(喜界島サンゴ礁科学研究所)
P-75	2017年台風5号による喜界島ハワイビーチのサンゴ礁環境の攪乱	北園凜気(奈良教育大学付属中学校3年)

書評

近年、研究、教育の場では、ブルーカーボンという言葉が耳にする機会が増えて来ているのではないのでしょうか？この言葉は2009年に国連の機関が公開した「Blue Carbon」という報告書が元となっており、マングローブ林や海草藻場、塩性湿地といった海洋植生が吸収する二酸化炭素(CO₂)を意味します。本書は生態学者である編著者らを中心に、地球化学やモデリングを専門とする研究者、行政機関の著者も共同して執筆しており、海草藻場での具体例を中心にブルーカーボンを包括的に論じています。

例を挙げてみましょう。本書内では海洋植生が大気から光合成でCO₂を固定することを「隔離」、海水中に隔離された有機炭素が、生物が分解しにくい難分解性の有機物となって海底の堆積物中や深海に輸送されることを「貯留」と定義しています。隔離は陸上植生に固定されるCO₂、いわゆるグリーンカーボン、にも共通するプロセスですが、貯留というプロセスはブルーカーボンに特徴的な点です。グリーンカーボンは森林を拡大していくことでCO₂を固定していくのに対し、ブルーカーボンは生態系の面積は変わらなくても、固定したCO₂を効率的に堆積物や深海に貯留するメカニズムが整っていればCO₂を固定していきます。本書は海草藻場でCO₂が大気から(海水を通し)海草に固定され、それが堆積物あるいは深海に輸送され長期間貯

留されていく過程を、詳しく説明しています。またブルーカーボンの応用と実例として、横浜市の事業について詳述しています。こうしてブルーカーボンの基本的概念とその活用を一冊の本で理解できる構成は、本書の優れた点だと思います。

将来の改定を期待し、少しだけ注文をつけておきたいと思います。本書で扱われているのは主に日本の温帯域の海草藻場ですが、塩性湿地を除きブルーカーボンを構成するマングローブ林、海草藻場は熱帯・亜熱帯域に大きな面積を持ちます。今後こうした地域からの事例も盛り込まれ、比較検証されることが望まれます。またサンゴ礁とマングローブ林、海草藻場との関係についても解説が欲しいと感じました。サンゴ礁地形が発達することで背後に静穏な場が作られ、細かな砂や泥が溜まることでマングローブ林や海草藻場の発達が可能になります。逆にマングローブ林や海草藻場が健全に保たれることで、細かな土粒子がトラップされ、透明度の高いサンゴ礁が維持されるという側面もあります。

脱線しましたが、本書によりブルーカーボンの概念が研究者や学生に正しく伝わり、近い将来ブルーカーボンに関する科学的情報が蓄積され始めるのではないかと思います。更にこうした科学的情報が政策決定者に活用され、藻場や

マングローブ林の保全・再生に繋がることが期待されます。本書からは、編著者陣からのそうした熱いメッセージも随所に感じることができそうです。



タイトル：

ブルーカーボン
浅海におけるCO₂隔離・貯留とその活用
堀正和・桑江朝比呂 編著

出版社：地人書館
ISBN：978-4-8052-0909-7
書評者：渡邊 敦

(東京工業大学 環境・社会理工学院)

報告

第2回若手科学者サミット参加報告
東京大学大気海洋研究所 樋口 富彦 thiguchi@aoi.u-tokyo.ac.jp

2017年6月、第2回若手科学者サミットが日本学術会議若手アカデミー主催で開催され、日本サンゴ礁学会からは樋口が参加致しました。日本サンゴ礁学会若手の会は2016年より若手アカデミーの作る若手科学者ネットワークのメンバーとなりましたが、今回が初めての参加となりました。今回のサミットは、3部構成で、若手の会から推薦を受けた若手研究者による研究報告、各学会の若手の会の紹介を行うポスターセッション、文部科学省の職員3名を交えたパネルディスカッションが行われました。

ポスター発表では、本学会全体の研究紹介のほか、主に小・中学生を対象にした博物館などでのアウトリーチ活動や、本若手の会が主導して行った日本サンゴ礁学会誌での特集号の出版について報告しました。想定していた以上に多くの方にお越し頂き、様々な意見を頂くことができました。質問については、特に出版物についてのものが多く、サンゴ礁学会若手の会として特集号を組んだ実績等をアピールできました。若手の会の活動の詳細は、日本サンゴ礁学会若

手の会ブログ(<http://coralreef-motto.blogspot.jp/>)に掲載されているので、こちらも参照ください。また、どのように活動の経費を賄っているのか、学会本部からの援助の有無など意見交換を行いました。どの学会も限られた予算で運営しているため、全国規模に会員を持つ会ほど全体の集会などを行うことは困難なようでしたが、今後他団体の若手会と情報交換を図り、良い運営方法を共有できればと思います。他の学会の方から学会間での交流のお誘いも頂き、今後分野の近いところから交流を進めようと考えています。

第3部のパネルディスカッションのテーマは「若手研究者と研究費」で、私もパネリストの一人として参加する機会を得ました。ちょうど話題になっていた研究費運用に係る大学ごとのルールの違い(いわゆるローカルルール)についての文科省の見解や、研究費に関する問い合わせの際の窓口について、省庁が公開している情報と研究者が求めている情報の相互共有の重要性等、若手に限らず研究者全体にとって重要である事項について議論しました。また、今年は



写真：パネルディスカッションの様子。パネリスト右から2番目が著者。

若手研究者にとって今年は大きな変化の年で、科研費の若手の定義がかわること、研究種目の若手研究Aが廃止になり、基盤研究Bに統合することなど科研費改革による変更点についても共有されました。

後日、文部科学省の若手職員の方との意見交換も行い、研究者側の意見を直接伝えられるネットワークが構築できたことで今後日本サンゴ礁学会の活動の助力になればと考えています。今回のサミットの内容は、日本学術協力財団発行の「学術の動向」2017年12月号に特集記事として掲載される予定なので、そちらも併せてご覧いただければ幸いです。

1997

写真と共に振り返る

日本サンゴ礁学会の20年の歩み



1997年：日本サンゴ礁学会設立準備委員会会合



1997年：初代会長 山里清会長挨拶



2004年：10th ICRS (沖縄) 大会実行委員会



2004年：10th ICRS (第10回国際サンゴ礁シンポジウム) の開催



2004年：10th ICRS (沖縄) 懇親会



2007年：学会賞・川口奨励賞の授与開始

文部科学省科学研究員補助金(新学術領域研究)
サンゴ礁学
-複合ストレス下の生態系と人の共生・共存未来戦略-

3つの連携領域

- 複合ストレス評価**
- 生態系応答評価**
- 社会システム評価**

2008-12年：新学術領域研究「サンゴ礁学」の取組



2009年：巡検を通じた異分野交流「サンゴ礁学」

📷 歴代会長



1997 - 2005
山里清



2005 - 2007
小西健二



2007 - 2009
西平守孝



2009 - 2013
土屋誠



2013 - 2017
鈴木 款



2017 -
日高道雄



📷 2009年：論文賞の授与開始



📷 アウトリーチ活動への注力(白保意見交換会)



📷 2012年：若手会の活動がスタート



📷 2013年：サンゴ礁保全奨励賞の授与開始



📷 2015年：功労賞の設立



📷 2015年：大会におけるテーマセッションの開始

2017

編集後記
Editor's postscript

📷 日本サンゴ礁学会20周年！20年の歩みを見るとこれまでご尽力頂いた先生方の功績の数々が感じられます。私も今後の学会の継続・発展に少しでも助力できればと改めて思います。

編集担当 樋口



日本サンゴ礁学会ニュースレター [2017年11月]
Newsletter of Japanese Coral Reef Society No.75

2017年11月16日発行

- 編集・発行人 / 「日本サンゴ礁学会広報委員会」
梅澤・Agostini・磯村・栗原・酒井・鈴木 (家)・中嶋・浪崎・樋口・本郷・安田・湯山・和田
- 発行所 / 一般社団法人日本サンゴ礁学会 ● 事務局 <info@jcrs.sakura.ne.jp>
〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 185-1 一般社団法人日本サンゴ礁学会 事務局 FAX : 088-880-2284